秋の会津三十三観音めぐり

日本百観音として知られている

西国三十三観音・秩父三十四観音・坂東三十三観音をはじめとした観音巡礼は、 国内に数多くありますが、ここ会津にも会津藩祖保科正之によって

寛政二十年(1643年)に会津三十三観音の札所が設けられました。 1990年代のパワースポットブームを発端に、神社仏閣などをめぐる聖地巡礼ブームが起

なかでも若い女性に人気で「ご朱印ガール」なる言葉も生まれています。

き、さらに最近では、寺社名やご神体などが書かれた「ご朱印」の収集もブームとなって

今回のフォトアルバムでは、会津三十三観音めぐりのうち、 会津若松市内にある十五番から二十番までの札所を画像とご詠歌を中心に紹介します。

会津若松市神指町にある国指定天然記念

第十五番 高瀬観音

いるそうです。

物である高瀬の大木(ケヤキ)のすぐそばに 福昌寺はあります。 案内板によると、承安二年(1172年)3月

20日、京と奥州を往来していた金売り吉

次一行が村東の応湖川を渡ろうとしたと き、大雨のため増水した舟が転覆し、弟 の吉六が溺死し冥福を祈って建立したの が高瀬観音堂だとあります。 【ご詠歌】 乗り得ても心許すな天小舟 高瀬の波は時を嫌わず



(撮影日 2015/10/6)







分のところ、住宅街を入っていくとひっ

そりと佇む平沢観音堂があります。



この寺は市内の天寧寺の末山といわれ、

(撮影日 2015/10/6)

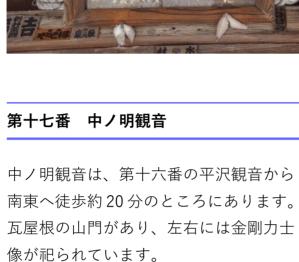
釈迦如来を本尊とし客殿に安置されてい ます。 観音堂と同じ敷地内には集会所や遊具が あり、地域の住民が集まる場所となって います。

がとても印象的でした。 参り来て浮き世を此処に忘れ置く 心及ばぬ平沢の月 【ご詠歌】









山門をくぐると大きな銀杏の木がたくさ んの実をつけ、秋を感じさせてくれまし



た。 昔、近くの沼から毎晩、光が射すので、

(撮影日 2015/10/6)

沼の水を浚ってみたところ底に大木があり、 その大木の中から1尺8寸の観音像が現れたと言い伝えられています。 観音堂を背に山門からみえる磐梯山がとても素晴らしい風景でした。 【ご詠歌】 参るより頼みをかけし観世音 沼木の沼に浮かぶ水鳥





参勤交代や領内巡視などの際の休憩所 だった旧滝沢本陣を山のほうへ、さらに 林道から参道にはいると、一遍空気が変

観音堂はあります。

きくなります。

堂があります。

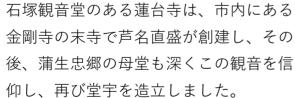
第十八番 滝沢観音

【ご詠歌】 (撮影日 2015/10/6)

わったような厳かな雰囲気の場所に滝沢





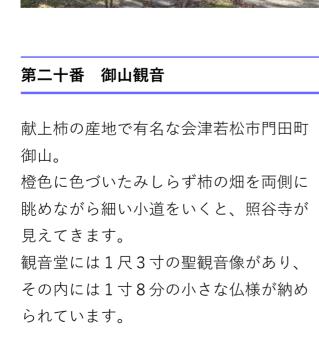


第十九番 石塚観音

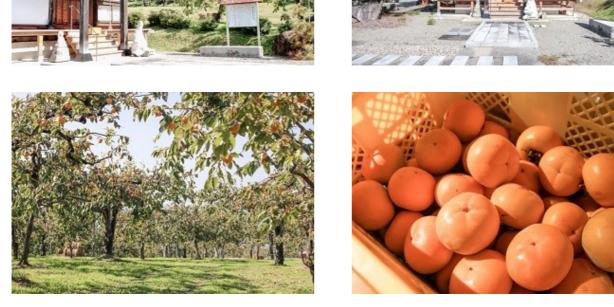
斗をかぶった実が落ち、秋を感じること が来ました。 【ご詠歌】 後の世を願う心は軽くとも 仏の誓い重き石塚 (撮影日 2015/10/6)

お堂の周りはクヌギの落ち葉や椀型の殻









にお会いし、寺院・仏像のこと、さらには地域の文化に触れることができたと思います。 御朱印を集めながら、そういった出会いを楽しむことも会津三十三観音めぐりの醍醐味で 会津三十三観音めぐりについては、以下のサイトを参照してください。

【極上の会津ホームページ会津三十三観音めぐり】 https://gokujo-aizu.com/33kannon



(撮影日 2015/10/21)







